



19～20 世紀の名器に感動！ 特別展「バンジョー大博覧会」



7月31日(土)から8月31日(火)まで、特別展「バンジョー大博覧会」を開催しました(実際の会期は9月25日(日)まで延長)。浜松市楽器博物館コレクションと東京在住の津村昭氏が所蔵するツムラコレクションの、19世紀から20世紀のバンジョー約100台と人形、絵ハガキ、楽譜など関連資料約50点の、合計150点ほどが展示されました。

会場は3つのエリアにわかれ、入り口を入ってすぐの第1会場には、19世紀イギリス製の minstrel・バンジョーが展示されました。minstrelとは、19世紀中頃アメリカで流行った歌や踊りのコメディショーで、音楽にはバンジョーが使われました。幕末に横浜に来た黒船の船内で、幕府の役人を招いて行われたのもこの minstrel・ショーで、日本人が始めてバンジョーに出会ったのもその時という、歴史的にも貴重な種類のバンジョーです。

続いて第2会場には4弦と5弦のバンジョーが

ずらりと並びます。見た目も派手なギブソン、トゥルージョ、パラマウント、リッチェル、ベイコン・アンド・デイなど製作の4弦プレクトラム・バンジョーは、見事としか言いようがないほどの迫力です。リッチェルが1976年に製作したアメリカ建国200周年記念モデルは銅の裏側にアメリカの象徴である鷲が浮き彫りにされた豪華極まりない逸品。一方 S.S. スチュワートやウェイマン、ドブソンなど製作の5弦オープンバック・バンジョーは、4弦バンジョーほどの豪華さはないものの、ネック一面に施された貝殻の象嵌装飾が上品な輝きを放って、これもまた見事なものです。この第2会場には他にフレンチ・マンドリン・バンジョー、ココナッツ・バンジョー、人形なども展示されました。地下の第3会場には5種類のバンジョーとその代表的は演奏が聴けるヘッドフォン装置が置かれました。会期中約27,000人の入場者でにぎわいました。



また展覧会関連事業として、8月21日(土)には講演会、ミュージアムサロン、ワークショップ、22日(日)にはレクチャーコンサートとイブニングサロンが開催され、多くの参加者で盛り上がりました。

なお、この展覧会には、バンジョー奏者の原さとしさんが、監修者として多大な協力をしてくださいました。



レクチャーコンサート「バンジョー大博覧会」 バンジョー歴史の旅3時間!



フィナーレ

8月22日(日)午後2時からアクトシティ音楽工房ホールにて第102回レクチャーコンサート「バンジョー大博覧会」を開催しました。特別展「バンジョー大博覧会」の関連イベントです。

コンサートは、19世紀アメリカの人気作曲家フォスターの名曲「オー、スザンナ」の演奏から始まりました。19世紀中頃、アメリカの黒船が日本に来ますが、その時に黒船に乗ってバンジョー

も来たのです。当時のアメリカの最新ヒット曲はフォスターの曲。黒船の船員もきっとバンジョーでフォスターの曲を演奏したに違いないからです。

司会はテレビやラジオで有名なイギリス人ピーター・バラカンさんと、日本のブルグラス音楽界の功労者渡辺三郎さんの2人。渡辺さんはコンサートの構成者でもあります。



ビーター・バブカンさん(左)
渡辺三郎さん(中) 原さとしさん(右)

オー、スザンナに続いて、「ヤンキー・ドゥードゥル」「草競馬」「ピカユーン・バトラ」と続きます。

日本を代表するバンジョー奏者有田純弘さんの5弦バンジョーソロ、2009年度横浜バンジョーブレイヤーコンテスト優勝者福田淳一郎さんの5弦バンジョーソロ、フィドルの高木バスコ光介、ギター



オールドタイム・ミュージック

のジェフリー山田、ダンスの坂野ヘジャ恵子さんも加わってオールドタイム・ミュージックの後には、おなじみディキシーランド・ジャズ。4弦バンジョーは今や世界のトッププレーヤー青木研さん。トロンボーン菊池明香、トランペット小森信明、クラリネット渡辺恭一、チューバ加藤人、ドラムス東城広志さんが加わって、「世界は日の出を待っている」「聖者の行進」ほかをにぎやかに楽しく演奏。世界のトッププレーヤー、ベラ・ブレックからの祝電ならぬ祝声も披露されました。



ディキシーランド・ジャズ。中央は青木研さん

休憩の後第2部は、地元浜松のアマチュアバンドである遠州ブルーグラスバンド、東北大学ブルーグラスバンドの半熟りんご飴とHAMIC Chickの皆さんによる「フェギー・マウンテン・ブレイク・ダウン」ほかの演奏。飛び入りで、かつて



東北大学ブルーグラスバンド



遠州ブルーグラスバンド



有田純弘さん(右)
クリス・シルバースタインさん(中) 石川智さん(左)

浜松の楽器メーカー東海楽器でバンジョーの開発をしていたという土田敏人さんから当時の苦労話が披露されました。そして終盤は、青木研さんと原さとしさんによる「トム・ドゥーリー」と「ワシントン広場の夜は更けて」、有田純弘さんとベースのクリス・シルバースタインさん、



土田敏人さん

パーカッションの石川智さんによる「セレスタ」と「サモア」、原さんソロでオリジナル曲「紫～菜」を和風情緒たっぷりに楽しみました。フィナーレは出演者全員でブルーグラスの名曲「ロンサム・ロード・ブルース」を演奏して終演。300人以上のお客さんが入った会場は熱気にあふれて、3時間を越える、大いに盛り上がったコンサートでした。



原さとしさん

ワークショップ・講演会・ イヴニングサロン・ミュージアム サロンモバンジョー三昧



ワークショップ



ブルーグラス・ミニコンサート



講演会



オールドタイム・バンジョー・ナイト

8月21日(土)午後2時から、研修交流センターで有田純弘さんと青木研さんによるワークショップ「大人のためのバンジョー講座」を開催しました。バンジョー経験者32人が熱心に指導を受けました。同じ時間に楽器博物館展示室天空ホールでは、東北大学と名古屋大学の学生さんによるブルーグラス・ミニコンサート。展示室も盛り上がりしました。夜6時30分からは音楽工房ホールでバンジョー研究者石川修次さんによる講演会「バンジョーの響き～その誕生から現在まで～」。バンジョーの祖先といわれる西アフリカの楽器から現代のバンジョーまで、その歴史と変遷を2時間におわたってお話していただきました。22日(日)夜7時からは天空ホールにてイヴニングサロン「オールドタイム・バンジョー・ナイト」昼間の熱気溢れるレクチャーコンサートとは雰囲気を変え、アメリカのアパラチア山脈地方の田舎の音楽を、5弦バンジョー福田淳一郎さん、ジェフリー山田さん、フィドル高木バスコ光介さん、バンジョーウクレレとダンスの坂野ヘジャ恵子さん、そして飛び入りの演奏者でお送りしました。お客さんも一緒になってカントリーダンスを楽しむ温かなひとときでした。

日本初の公立楽器博物館として平成7年(1995)4月8日に開館した浜松市楽器博物館は、本年4月で満15歳になりました。この15年間で所蔵資料数は開館当時の4倍以上の3300点となり、平成18年(2006)3月には念願の展示室リニューアルも完成。展覧会や講座、コンサートの数も格段に増え、ますます活発な活動をする博物館となりました。国内国外を問わず、多くの人から世界第一級の楽器博物館だという声をいただいています。開館準備から今まで、楽器博物館の仕事に携わってきた現館長の嶋和彦さんに伺ってきた、15年の歩みとこれからについてのインタビューも今回で3回目、最終回になりました。

—第1回目は欧米の楽器博物館と比較しての浜松市楽器博物館の特色や魅力、第2回目は展示やコンサートなど様々な活動についてお話していただきました。今回は、楽器や音楽の持つ魅力についてお話していただきたいと思います。まず、最初の質問ですが、世の中に楽器ってどれくらいあるのでしょうか？

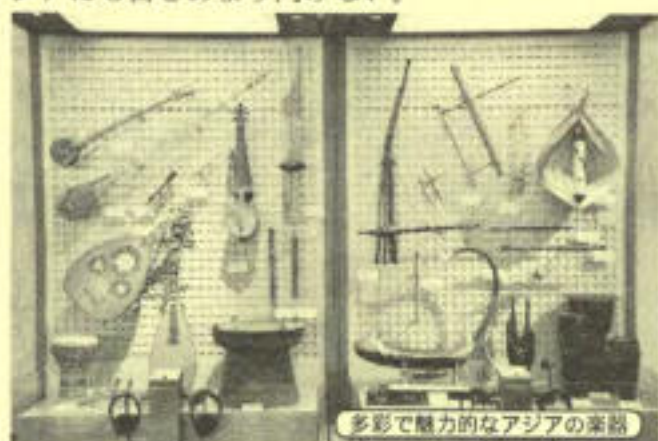
そうですね、何百、何千とありますね、正確にはわかりませんが、楽器と言うと、まずパッと人々の頭にひらめく楽器は…やっぱりピアノでしょう。学校の音楽室には必ずあるし、ホールにも必ずあるし、家にもある人が多いです。歌の伴奏もピアノが圧倒的に多いかな。とにかく大きくて目立つ楽器ですからね。その次は、オーケストラとか吹奏楽で使う楽器。ヴァイオリン、トランペット、フルート、クラリネット、ホルンとか。それからギターとか電子楽器のキーボード。40年位前までは学校で習っていたハーモニカも、今小中学生が学校で使っている縦笛のリコーダーも、どういうわけか名前があがらない。リコーダーなんて、50歳代以下のほとんどの日本人が経験している楽器なのに、楽器と思われていないのかもしれないね、ただの教材だと思っているとか。さらに自分の国の楽器、三味線やお琴や尺八などは、本当に名前が出ないのです。

隣国韓国や中国、もっと広くアジア、さらに遠くのアフリカや中南米の楽器となるともうお手上げかな。つまり、私達が普段楽器として知っていたり、演奏を聴いたり、自分で演奏するものっていうのは、この広い世界にある楽器の中で、爪の先ほどのほんのわずかなものであるということですね。それもヨーロッパの楽器に限られている。

—なるほど、そういわれればその通りです。私も小学校でリコーダーを吹きましたけど、大人になってからリコーダーが楽器だと強く思ったことってないです。リコーダーにお詫びしなきゃ。

この理由は簡単で、楽器は音楽とセットですか

ら、西洋の楽器しか頭に浮かばないということは、西洋の音楽にしか私達が普段接していないということなんです。生まれてから死ぬまで接する音楽といえば西洋音楽がほとんどで、日本の伝統宮廷音楽の雅楽なんて、まあ結婚式くらいでしか聞かないし、お琴や尺八もお正月ね。日本どころかアジアにも目をあまり向けない。



多彩で魅力的なアジアの楽器

でも最近、特に若い人は、ヨーロッパやアメリカだけでなく、アジアやアフリカなどに関心を持つ人がかなり増えてきています。旅行先もそうだし、ファッションや料理もそうですね。テレビドラマの世界だって、数年前から韓流ブームです。この潮流の中で、実は音楽も、西洋音楽以外の音楽に関心を持つ人がとても増えてきています。そしてその魅力を知って虜になってしまう人がかなりたくさんいるんです。といってももちろんまだまだピアノなどの西洋音楽・楽器の愛好者の足元にも及びませんが、確実に増えてきています。この理由は色々あるでしょうけど、交通や通信手段の普及で世界の情報が庶民から庶民へ直接伝わるようになったことが大きいでしょう。例えば、アジアのある村でこんな素晴らしい音楽、楽器があるとすれば、誰か一人がインターネットで紹介すれば、たちどころに地球上の何億もの人がその情報をキャッチできる。そして、その村、音楽、楽器に関心を持つ人、行きたいなって思う人が絶対に現れるんです。これはすごいことですよ。

—そんな珍しい楽器や音楽の例を紹介していただけますか。

例えばこのリンバ。一般に「親指ピアノ」と言われているアフリカの楽器ですけど、お弁当箱みたいな木の箱に、薄くて細い鉄の板が並んで付いています。



リンバを持つ嶋和彦館長

これを両手の親指ではじきます。するとなんともきれいな優しい、オルゴールのような音が出るんです。このリンバはタンザニアのゴゴ族の楽器ですが、アフリカ各地にいろんなタイプがあって、ジンバブエのものはムビラと言います。ムビラは箱ではなくて木の板なので、音が響きにくいので、大きな半球状のひょうたんの殻の中に入れて演奏します。そうするともう本当によく響きます。ほかにサンザとかリケンベとか地域ごとに名前が違い、共通の名前がありません。だからヨーロッパ人が親指ピアノって名付けたのですが、ピアノとは100%無関係。



ムビラの演奏

このリンバはもう20年以上も前から実は日本でも民芸品屋さんかなんかで売られていました。1個1500円くらいかな。ところが、お客さんは



大型のリンバ

でたために乱暴に金属をはじくだけだし、楽器もでたらめな調律だし、なんだこのガラクタのオモチャ、と思われていたんですね。ところが、その後、この楽器をきちんと正しく演奏できる人が日本に現れたんです。もちろん最初はたったひとりです。で、その演奏を聞いた人が、これは素晴らしいと思って練習して、ある人はアフリカまで行って現地の名人に習い、また日本に帰って来て広める。おかげで、この楽器は今や日本ではたくさんの愛好者がいます。日本人プレーヤーでCDを出して大人気の人もいるんですよ。何でもそうですが、正しい取り扱いをしないと、その楽器の素晴らしさはわかりません。

リンバの本当の素晴らしさとの出会いというのは、多くの人にとって大発見でした。新世界との遭遇というのかな。西洋楽器とも日本の楽器とも違う新しい魅力があったのです。もちろん今でもこの楽器のことを全然知らない人のほうが圧倒的に多いのですが、少しずつファンが増えていることは確かです。そしてそういう人は、アフリカという地域にも関心を向けていくのです。

楽器も音楽も人々の暮らしもそうですが、私達は知らないことが多すぎる、というか、今まで知らされていなかったと言う方が正しいのかもしれないですね。



リンバを演奏するゴゴ族の男

でも今の時代は、いろんな情報が手に入るし、昔と比べれば現地へ行くことも簡単にできるようになったのですから、これからももっともっとアジアやアフリカ、中南米に関心を持つ人が多くなるでしょう。楽器や音楽の世界ももっともっと広がりますよ。

ヨーロッパ世界の音楽や楽器には、もう新しい世界はないのでしょうか？

われわれは、西洋音楽はもうすべて知っている、楽しんでると思いきや実は違うんです。なるほど、音楽作品そのものはとてもよく研究されていて演奏されていますから、新発見の音楽作品というのはなかなか出ないでしょうね。でも新発見があるんです。それは響き、音色です。



ずらりと並ぶ19世紀のピアノ

例えばピアノ。私達は今ある黒い普通のピアノで、ベートーヴェンやショパンやモーツァルトの曲をひいて、ああいいなあとか、上手い下手だとかって言います。でもちょっと考えてみてください。ベートーヴェンもショパンもモーツァルトも、今から200年ほど前に生きていた人です。その頃に、いま私達が使っているような黒い大きなピアノがあったと思いますか。

ほとんどの人はこんなピアノがずっと昔からあったと思っているのですが、それは違います。200年前のピアノは、もっとサイズも小さくて、音も小さくて、響きも少なかったんです。今のピアノとは違う音色、響き、魅力がありました。

これはね、同じ物差しで計って良い悪いとかという問題ではないのです。例えば日本酒とビールとウイスキーとワインと、どれが良い悪いって決められますか。無理でしょう。同じお酒だけど、それぞれ味があって魅力がある。ピアノもそう。



19世紀のピアノのコンサート

同じピアノだけど現代のものと200年前のものとはそれぞれ魅力が違うというだけのことなのです。でもベートーヴェンは200年前のピアノで作曲し演奏したとうのは紛れもない事実。昔のピアノで弾くベートーヴェンの作品はベートーヴェン本人が聞いた、楽しんだ響き。今のピアノで弾くのは別の作品のような魅力が生まれるのです。モーツァルト然り、ショパン然り。

ーうーん、なるほど、そう言われればその通り。博物館はそんな新しい音楽の世界を開く場所なんですわね。

その通りです。博物館には200年前のピアノだけでなく、色々な昔の楽器、世界の楽器がそろっています。できる限りそれらを演奏して、その楽器や音楽の魅力を紹介して、新しい世界を知ってもらって人生を楽しんでもらうこと、それが楽器博物館の大きな使命です。ただ楽器を並べて見ってもらうだけというのでは、デザインの勉強の参考にはなっても、音楽の世界への扉とはなりませんからね。

楽器の魅力とは姿形の奥にある美意識や価値観、宇宙観、人々の暮らしです。そんな楽器から生まれる音楽もまた、聞こえるメロディやハーモニー、リズムの奥にある美意識や価値観、宇宙感が大きな魅力なんです。心の栄養ですね。

ーさて、インタビューも今回で終わりなのですが、最後に館長が描く今後の楽器博物館の姿を教えてください。



一口で言えば、夢のある博物館です。博物館に入ったとたんに、日常ではない、非日常の魅力ある形や色の世界、音の世界に出会うような、夢のある空間です。そこで、美しい素晴らしい楽器たちに出会い、その素性、隠された神秘や物語に出会い、奏でられる音に酔いしれる、そんな空間です。身体全体で感じる音楽の世界、感性のみならず知性としての音楽と楽器の世界に誘う空間です。この実現にはたくさんの装置が必要ですし、スタッフの勉強、つまり実現のための膨大な情報を収集するも必要です。どこまでできるかわかりませんが、まずは開館20周年が目標ですわね。こんな時代ですから、なかなか多くの経費はかけられせんから、知恵を絞って、多くの方のご支援とご協力、ご援助もいただいて、なんとか実現したいと思っています。

ー20歳の楽器博物館、楽しみです。どうもありがとうございました。

多様な楽器をテーマにコンサート、講座を開催

レクチャーコンサート

「もうひとつのリコーダー～“ヴォイスフルート”の魅力～」



ヴォイスフルートは、アルトリコーダーよりも音域が低くテナーリコーダーよりも音域の高いリコーダーです。「フルート」という言葉は、現在はオーケストラなどで使われる横吹きの楽器を指しますが、バロック時代ではリコーダーのことを指しました。リコーダーは、18世紀初めに最盛期を迎え、テレマインなどの大作曲家によって数多くの名曲が生まれました。このコンサートでは、ヴォイスフルートの独奏に加え、同じ頃に最盛期を迎えたリュートやヴィオラ・ダ・ガンバとの合奏もあわせて楽しみました。

日時：平成22年9月4日(土)18:45～20:45
出演：花岡和生(リコーダー)、永田平八(リュート)、品川聖(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 会場：展示室天空ホール 入場者：50人

レクチャーコンサート

「瞑想の奥へ、響きの彼方へ～地無し尺八の世界～」

地無し尺八は、江戸時代に虚無僧が宗教儀礼や心身の鍛練、托鉢などの修行のために用いた尺八です。現代の地塗り尺八とは構造が異なり、管内に漆をぬっていません。現存する地無し尺八は数が少なくとても貴重です。今回は、当館所蔵の地無し尺八のうち俣野真龍作「古可良志」「露堂々」、林虎月作「秋草」の3本を使用して、古伝三曲の《虚鈴》《虚空》《霧海鏡》を吹奏しました。曲の合間のお話の中で「地無し尺八は、竹の節を残しているのです。1本ずつ竹の長さも違うし、出てくる音も違う。演奏はとても難しいです。その昔、虚無僧は一生ひとつの楽器を持って2～3曲を極めてきたのでしょ。まさに竹の「芯音」、一生かけて作る『真音』を生涯をかけて追及して生きていたのでしょ」と志村さんが先人の楽器に対する想いを語られました。



日時：平成22年9月21日(火)19:00～21:00
会場：アクトシティ音楽工房ホール
出演：志村哲 入場者：81人

イヴニングサロン

「チターに魅せられて・・・」

チターは、オーストリアのチロル地方周辺に伝わる楽器です。楽器を机や膝に置いて弦をはじき、一人で旋律と伴奏を同時に演奏します。映画「第三の男」のテーマ曲の演奏にチターが使われて一躍有名になりました。一時間余りのコンサートでしたが、チターのやさしく温かな音色で「第三の男」のテーマ曲をはじめ10曲ほどを楽しみました。

日時：平成22年8月7日（土）18:30～19:30
会場：展示室天空ホール 出演：内藤敏子（日本チター協会会長） 入場者：125人



イヴニングサロン

「フレンチ・クラヴサン之美」

このコンサートでは、当館所蔵のチェンバロ（フランス名：クラヴサン）を使って音色を楽しんでいただきました。使用した楽器は、フランス王室御用達の製作家フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世が1765年に製作したもので、彼が製作した楽器は世界に数台しか残っておらず貴重な資料です。名手中野振一郎さんによる演奏でバッハやクーランといったバロック時代の大作作曲家の作品と、19世紀から20世紀に流行したウィーン歌曲やオペレッタの作品を、チェンバロの名器による甘い音色で楽しんでいただきました。

日時：平成22年9月17日（金）18:30～19:30 会場：展示室天空ホール 出演：中野振一郎 入場者：43人



講座

「民族楽器による音楽セラピー」



日時：平成22年8月8日（日）14:00～16:00
会場：アクトシティ研修交流センター 講師：ロビン・ロイド 参加者：61人

ミュージシャンで音楽セラピスト、詩人のロビン・ロイドさんを講師に迎え、民族楽器による音楽セラピーの講座を開催しました。音楽療法の世界では今この民族楽器を利用した方法が注目を浴びています。音楽療法はかつては楽器を演奏するという運動による身体機能の回復訓練が中心でしたが、現在では音楽が本来持っている心理的効果による精神の健康回復訓練によって同時に身体機能も向上させることに重点が置かれています。講座では様々な国の民族楽器のデモンストレーションのあと、癒しについてのお話があり、受講生全員がカシシというアフリカのマラカスを使って実際に音を出して民族楽器の使い方について学びました。音楽療法士、障害者施設、高齢者施設など音楽療法にかかわっている人などが熱心に学んでいました。

大盛況！夏休み特別ミニ・コンサート

8月14・15日は、南米パラグアイの国民的楽器「アルバ」。長島忠之さんのアルバとペルー出身のパブロ・テロネスさんによるギターと歌による合奏を楽しみました。8月21日は「パンジョー」。ブルーグラスを東北大学と名古屋大学の学生さんのバンドに演奏していただきました。8月23日はビルマの豎琴として有名な「サウン・ガウ」。ミャンマー出身のス・ザ・ザさんの演奏で美しく繊細な音色を楽しみました。8月24日は「リードオルガン」。博物館所蔵のアメリカ・エスティ社のオルガン（1891年製）で、バッハの曲などを鈴木開さんの演奏で披露しました。8月28日は打越島三さんの演奏で「チター」を紹介しました。



コレクションCD新発売

当館の所蔵楽器を使用したCDコレクションシリーズに新たな仲間が加わりました。使用楽器は、当館が世界に誇るフランソワ・エディエンヌ・ブランシェ2世のチェンバロ(1756年製)。この楽器は、フランス王室御用達の楽器製作者ブランシェが製作したもので、現存する楽器は数台しかないといわれています。No.24は「ウィーン、我が夢の街」「メリー・ウィドウ・ワルツ」など19世紀ウィーンの歌曲やオペレッタの名曲アルバム。No.25は「平均律クラヴィア曲集」「フランス組曲」など、J.S.バッハの名曲からの抜粋アルバム。ぜひお楽しみください。



◆これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日1時間
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- 特別展
「特別展 世界がびよよ〜ん 口琴ワールド」
会期：10/28(木)～11/28(日) 展示室
- 15周年記念企画
「電子楽器の未来を探る～電子チェンバロの可能性～」
10/3(日) 13:00 展示室天空ホール
- レクチャーコンサート
「フォルテピアノの神髄～巨匠スタンリー・ホッホランドのベートーヴェン～」
10/30(土) 16:00 音楽工房ホール
「驚異の口琴～サハ共和国のホムス～」
11/2(火) 19:00 展示室天空ホール
「ショパンの愛したブレイエル・ピアノ～弦楽器と奏でる美しい詩～」
11/15(月) プレートーク 18:15、開演 19:00 音楽工房ホール
「19世紀のフォルテピアノと弦楽器による室内楽の極み ベートーヴェン ピアノ協奏曲第4番」
12/4(土) 17:00 中ホール
「19世紀のフォルテピアノと弦楽器による室内楽の極みシューベルト ピアノ五重奏曲「ます」」
12/5(日) 17:00 中ホール
- イブニングサロン
「チェンバロ三重奏によるクリスタル・サウンド」
10/3(日) 18:30 展示室天空ホール
「リコーダーカルテット」
10/16(土) 18:30 展示室天空ホール
「ヴィオラ・ダ・ガバの夕べ 2010年古楽コンクール<山梨>優勝者による」
11/13(土) 18:30 展示室天空ホール
「ミュージアムクリスマス ローランド・ファミリーコンサート」
12/22(水) 18:45 展示室天空ホール
- 講座
「シルクロード民族音楽紀行(全8回)」
第8回「トルコ」10/9(土) 13:30 研修交流センター

彫刻“笙を奏でる”の寄贈

富山大学教授で彫刻家の長谷川総一郎さんより彫刻「笙を奏でる」(FRP樹脂製)が8月に寄贈されました。ペールのような衣をまとった長い髪の乙女が座って日本の伝統楽器笙を奏でている姿を表した作品で本体の高さは120cm。1986年の製作。博物館の1階と地下を結ぶ階段の踊り場に展示しました。壁の大理石の淡いグレーと彫刻の濃いグレーが美しく調和しています。是非ご覧ください。



◆博物館日誌

- 7/10(土) 講座 シルクロード民族音楽紀行 第6回「イラク」
13:30 研修交流センター 講師：江波戸昭 参加者：25人
- 7/31(土)～8/31(火)～9/25(土)まで延長
特別展「バンジョー大博覧会」
- 8/7(土) イブニングサロン「チターに魅せられて」
18:30 展示室天空ホール 出演：内藤敏子 入場者：72人
- 8/8(日) 講座「民族楽器による音楽セラピー」
14:00 研修交流センター 講師：ロビン・ロイド 参加者：61人
- 8/14(土)、8/15(日) ミュージアムサロン「南米のハーブ アルバ」
14:00、15:30 展示室天空ホール 出演：長島忠之、パブロ・テロネス 入場者：229人
- 8/21(土) 県民の日(入館無料日)
ミュージアムサロン「バンジョー」
12:00 展示室天空ホール 出演：東北・名古屋大学生ブルーグラスバンド 入場者：365人
ワークショップ「大人のバンジョー講座」
14:00 研修交流センター 講師：有田純弘、青木研 参加者：32人
講座「バンジョーの響き～その誕生から現在まで～」
18:30 研修交流センター 講師：石川修次 参加者：65人
- 8/22(日) レクチャーコンサート「バンジョー大博覧会」
14:00 音楽工房ホール 出演：ピーター・バラカン、渡辺三郎、有田純弘、青木研、原さとし、福田淳一郎、遠州ブルーグラスバンド、東北大ブルーグラスバンドほか 入場者：282人
イブニングサロン「オールドタイム・バンジョー・ナイト」
19:00 展示室天空ホール 出演：ジェフリー・山田、福田淳一郎、高木バスコ光介、坂野ヘジャ 恵子 入場者：84人
- 8/23(月) ミュージアムサロン「サウン・ガウ」
14:00、15:30 展示室天空ホール 出演：ス・ザ・ザ 入場者：84人
- 8/24(火) ミュージアムサロン「リードオルガン」
14:00、15:30 展示室天空ホール 出演：鈴木開 入場者：93人
- 8/28(土) ミュージアムサロン「チター」
14:00、15:30 展示室天空ホール 出演：打越高三 入場者：125人
- 9/4(土) レクチャーコンサート「もうひとつのリコーダー～『ヴォイスフルート』の魅力～」
18:45 展示室天空ホール 出演：花岡和生、永田平八、品川聖 入場者：50人
- 9/6(月)～9/10(金) 移動楽器博物館(葵西小学校)
児童数：700人
- 9/17(金) イブニングサロン「フレンチ・クラヴサン之美」
19:00 展示室天空ホール 出演：中野振一郎 入場者：43人
- 9/21(火) レクチャーコンサート「願望の奥へ、響きの彼方へ～地無し尺八の世界～」
19:00 音楽工房ホール 出演：志村哲 入場者：81人
- 9/25(土) 講座「シルクロード民族音楽紀行」第7回「レバノン、シリア、ヨルダン」
13:30 研修交流センター 講師：江波戸昭 参加者：25人

利用案内

常設展観覧料：大人400円 高校生200円
中学生以下・障害者・高齢者(70歳以上)は無料
開館時間：9:30～17:00
休館日：毎月第2・4水曜日(祝日の時は翌日)、年末年始、
その他施設点検等のための臨時休館日

浜松市楽器博物館だより

平成22年10月1日発行 No.61
編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp
URL http://www.gakkihaku.jp/

お知らせ：「浜松市楽器博物館だより」は、ホームページからも見る您可以通过。また、ホームページでは最新のイベント情報も紹介しています。ぜひご覧ください。